

総務省

4次元サイバーシティの活用に向けたタスクフォース(第1回) 資料

NTT DATA
Trusted Global Innovator

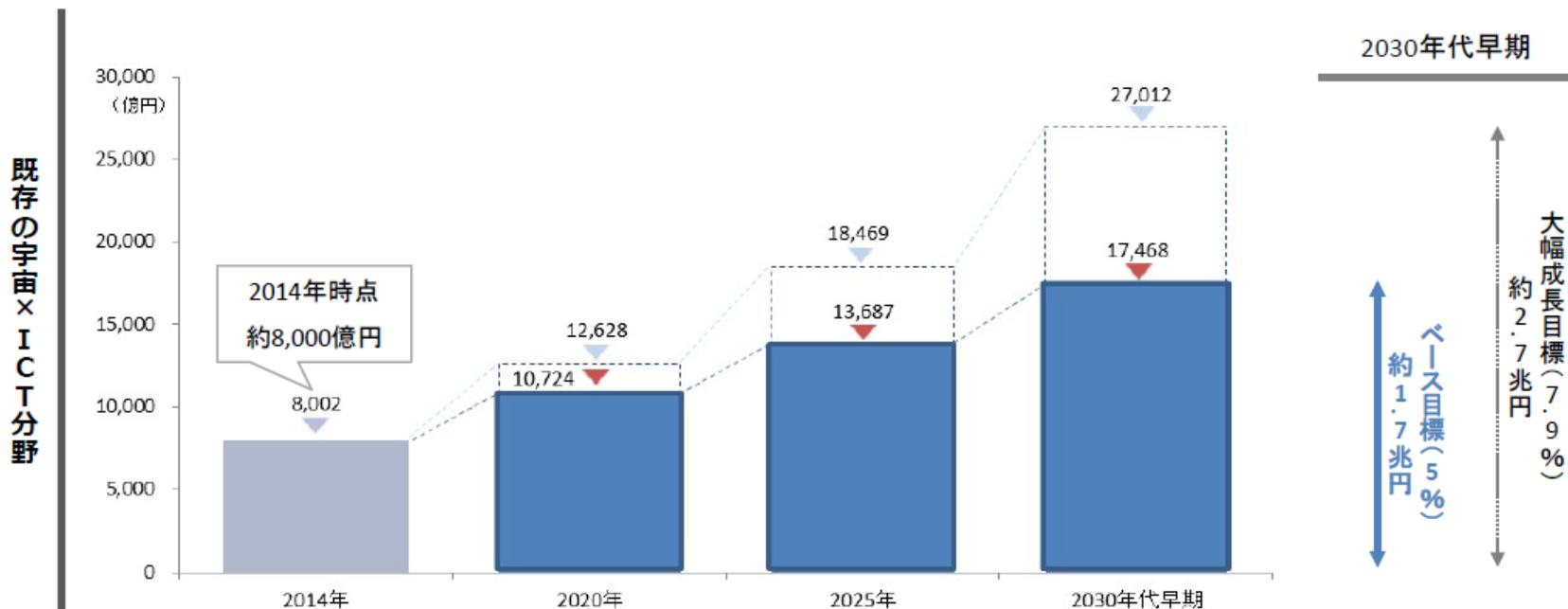
衛星データ利活用ビジネスの国内市場(将来目標)

2018年5月31日
株式会社NTTデータ経営研究所

宇宙×ICT分野の将来目標(2030年代早期)「宇宙×ICTに関する懇談会」より

「宇宙×ICTに関する懇談会」では、既存の宇宙×ICT分野(ブロードバンド衛星通信ビジネスと宇宙データ利活用ビジネスの合算)における2030年代早期の市場規模を約1.7兆円と予測した。

宇宙×ICT分野の将来目標 (2030年代早期)



新規創出を
目指す分野

+

ワイヤレス宇宙資源探査ビジネス：
約1.5兆円

宇宙環境情報ビジネス：
約1,650億円

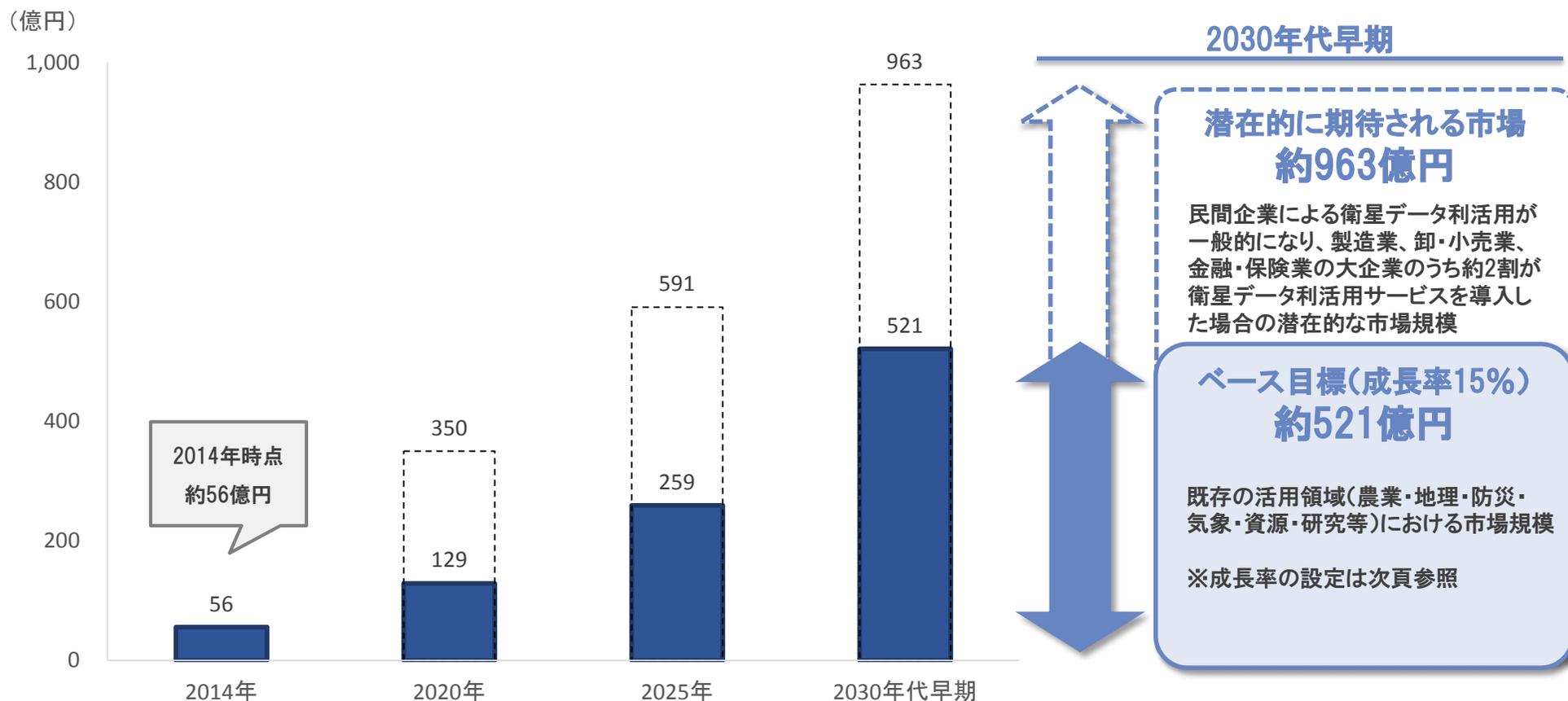
(参考数値)

出所:総務省「宇宙×ICTに関する懇談会」報告書(平成29年8月8日)

衛星データ利活用ビジネスの国内市場(将来目標)

衛星データ利活用ビジネスに限定した国内市場規模は、2030年代早期において、ベースとなる将来目標を約521億円と想定。民間企業におけるマーケティング等への活用領域の拡大が実現されれば、潜在的な市場は約963億円と見込まれる。

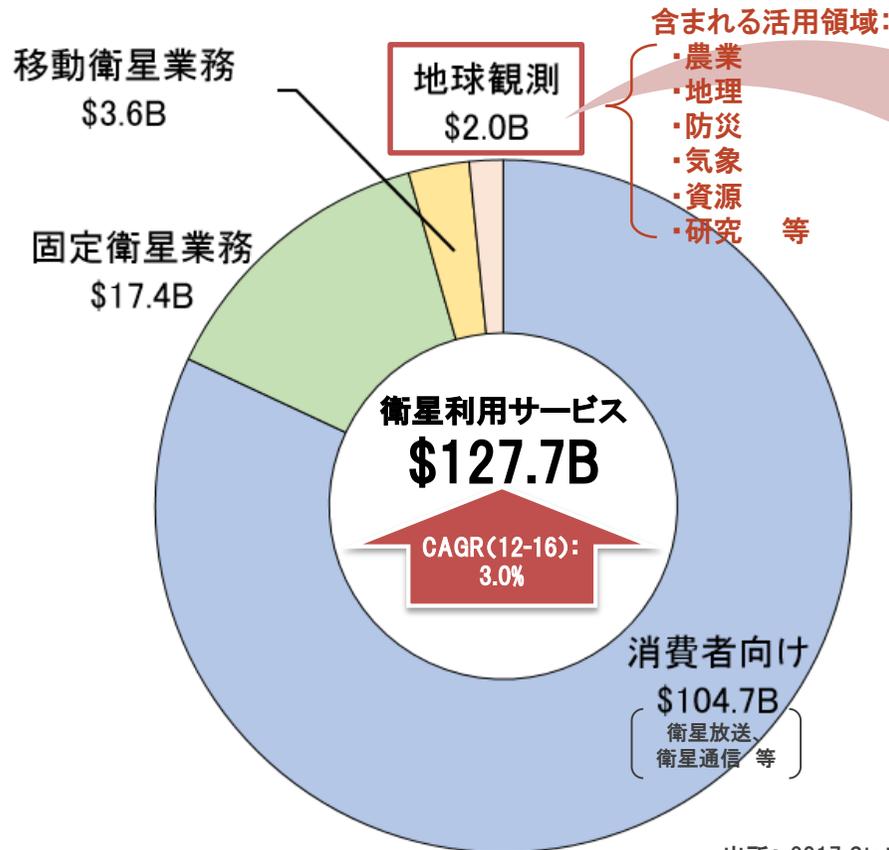
衛星データ利活用ビジネスの国内市場(将来目標)



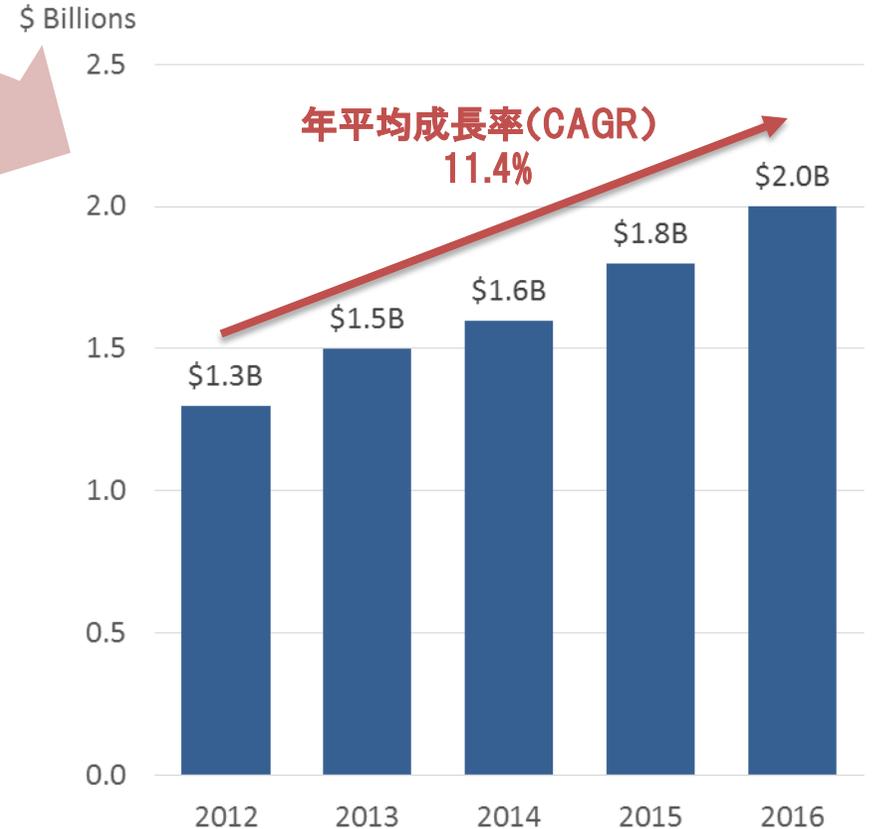
(ご参考)世界の地球観測市場の推移(2012-16年)

世界における衛星利用サービス市場は、通信・放送分野が大半であるが、近年はリモートセンシング衛星による地球観測サービスの市場が二桁成長を遂げている。

世界の衛星利用サービス市場の内訳(2016年)



世界の地球観測市場の推移(2012-16年)



出所: 2017 State of the Satellite Industry Report(The Satellite Industry Association (SIA)、平成29年6月)を元に作成

衛星利活用先進国に比して我が国は利活用(現在は、気象・地理が大半。)の裾野拡大が今後進んでいくと想定されるため、農業・防災・資源等の既存活用領域においてグローバル平均以上の成長を見込み、ベース目標を15%と設定。

(ご参考)潜在的な将来目標の設定根拠

民間企業による衛星データ利活用が一般的になり、製造業、卸・小売業、金融・保険業の大企業のうち約2割がソリューション・サービスを導入すると想定すると、ベース目標に加算して年間約442億円の潜在市場が見込まれる。

1企業あたりの
衛星データ利活用サービス導入価格(想定)

一般的なビッグデータ分析ソリューション(データ解析コンサルティングサービスを含む)の年間費用



衛星データ利活用サービス導入企業数(想定)

製造業、卸・小売業、金融・保険業において
大企業の約2割がソリューション・サービスを導入

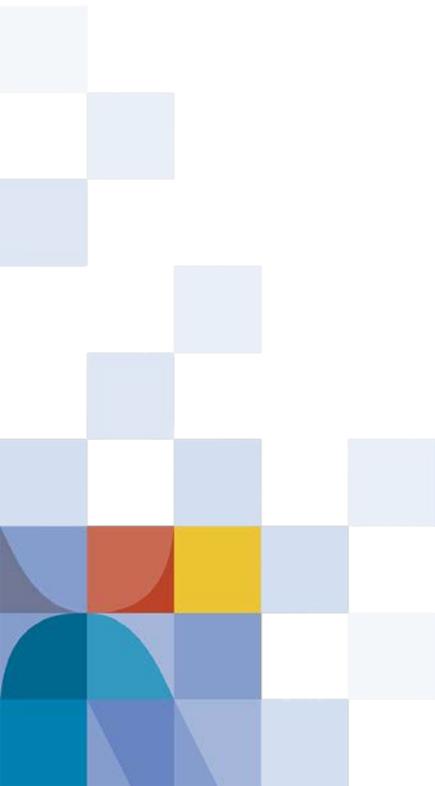
1社あたり年間費用 : 34.5 百万円 / 年 と設定

- 衛星画像購入額: 10.5 百万円 / 年
(分解能5m程度、国内市街地全体を年4回取得と想定)
- ビッグデータ分析ソリューション: 24.0 百万円 / 年
(一般的なビッグデータ分析ソリューション(データ解析コンサルティングサービスを含む)の年間費用)

国内の産業別規模別企業数(2014年)

産業	大企業	中小企業
製造業	1,957	413,339
卸・小売業	4,182	896,102
金融・保険業	259	29,959

出所: 中小企業庁「2017年版 中小企業白書」(平成29年8月2日)



NTT DATA

Trusted Global Innovator